

支えた沿道の声援 450人超の役員・ボランティア 資金協力 若穂の潜在力

## 初めての「とびっくラン」をやりました～

ちょっと寒い日でしたが、11月11日の「とびっくラン」は大成功。①9:30に10キロが、5分間隔で3キロ、5キロがスタート。老若男女のランナーが秋の若穂路を走りました。大激戦は299人が参加した10キロ男子一般。最も遠い参加は仙台市から。最高齢は5キロの89歳、□□□□さん。②若林健太参院議員も10キロに参加、健脚です。③表彰はクラス別に3位まで(一部を除く)。副賞は何でしょう？④商工会の出店や軽トラ市がたちました。沿道の声援、ボランティア、資金協力などありがとうございました。



### 各クラス1位の皆さんです。わかほっ子たちも、がんばりましたよ！

|              |  |              |  |
|--------------|--|--------------|--|
| 10km男子／高校生   |  | 10km女子／高校生   |  |
| 10km男子／一般    |  | 10km女子／一般    |  |
| 5km男子／中学生    |  | 5km女子／中学生    |  |
| 5km男子／高校生    |  | (参加なし)       |  |
| 5km男子／一般     |  | 5km女子／一般     |  |
| 3km男子／小学1・2年 |  | 3km女子／小学1・2年 |  |
| 3km男子／小学3・4年 |  | 3km女子／小学3・4年 |  |
| 3km男子／小学5・6年 |  | 3km女子／小学5・6年 |  |
| 3km男子／中学生    |  | 3km女子／中学生    |  |
| 3km男子／高校生・一般 |  | 3km女子／高校生・一般 |  |

若穂中吹奏楽部の皆さんが、演奏でコーリンするランナーを迎えました。

### 直後にインタビュー

スタッフの皆さんも、達成感にあふれていましたね

□□□□(大会長) 「素晴らしい大会でした。これを生かして、来年もぜひやりたいと思います。」

□□□□(実行委員長) 「よかった～。選手、応援の皆さんのご厚意で大会を成功でき、全ての皆さんに感謝で

◆◆「とびっくラン」は全国のランナーに扉を開いた、若穂としては初めてのビッグイベントでした。コース設定のため、交通規制や路線バスの迂回などをおこないましたが、地域の皆さまのご理解・ご協力に感謝いたします◆◆

**元気なまちづくり市民会議**  
 実現に向け継続した取り組みが必要

□□市長や関係部長・若穂支所長が出席して、10月28日に《若穂地区・元気なまちづくり市民会議》が開催された。区長や関係役員など約120名が参加。限られた時間の中で9名が発言した。現道拡幅の方向で予備設計まで進んでいる国道403の綿内区間については、バイパスも含めて、早期の実現を求める声が3名から……。また、支所二階へのエレベーター設置や、文化施設の設置などについても要望が出された。



ほとんどが岩場で重機が必要なので、地元負担が数千万円になってしまいとても一地域ではできない。その点を……

すでに調査研究や市との協議を進めている山新田区。回答を受けて、当事者でもある□□□□事務局次長が市の支援拡充を求めました。



**①「有害鳥獣対策について」**

**【要望要旨】** 鳥獣の農作物被害が後を絶たない。このため、侵入防止策などの鳥獣対策の実現に向けた検討をお願いする。

**【回答の一部】** 基本的には「地域を守るのは、地域の皆さま」であり、まず皆さまで可能な対策をできるだけ講じていただきたい。防護柵の設置については、松代地区の取り組みのように国の補助事業を活用して、地域全体を対象とした防護柵の設置が必要であり、事業の導入について地域ぐるみで検討していただきたい。市では、今年度から「緩衝帯維持管理支援事業」を新たに創設し、市が整備した後に、地域で取り組む維持管理に要する経費について、標準経費の2分の1を限度として支援している。なお、若穂地区では、駆除したイノシシなどを有効活用するため、猟友会、有害鳥獣対策協議会が主体となって、「食肉加工施設」を建設する計画である。

**②「屋代線跡地の利活用について」**

**【要望要旨】** 駅前広場、駅舎を活用しながら、地域住民のコミュニティーの核として活用していきたい旨の要望をしている。しかしながら、基本構想では将来的な構想について何ら方向性が示されていない。整備計画を検討する際には、地域住民と十分協議の上、進めてほしい。

**【回答の一部】** 整備計画については、基本構想を策定した後に整備目標時期、維持管理方法、概算事業費などを示す計画としてまとめていく。跡地活用は、地域活性化が目的であるので、沿線地区と行政との協働により進めていかなくてはならない。そのため、施設の活用方法や維持管理方法などは、地域と協議しながら進めていくので、ご協力をお願いする。将来的な活用策についてであるが、今回の基本構想はこれで終わりではなく、整備後の活用事業の点検を行いながら、継続して検討していく。若穂地区からは、将来的な利用として、綿内駅・信濃川田駅に「集い・情報発信・物販・人材育成」などを目的とした拠点センターを建設してほしいとの要望があげられている。この拠点センターについては、具体的にどのような形での活用となるのか、既存の施設での活用はどうかなどを検討し、提案していただきたいと思う。

2年目を迎えて今年も11月1日から4日間、若穂公民館や若穂支所を会場に文化祭(作品展示や演奏会)や農産物直売、写真展示、こどもまつり、ノルディックウォーキングが催され大勢の皆さんが足を運ばれました。文化の輪が広がっています。

**《文化の秋 わかほウィーク》**

